お経のことば

すでに過去に於いて極楽浄土に生まれたいと願い、
或いは今願い、或いは未来に於いて願うなら、（中略）
すでに過去に生まれており、或いは今生まれ、或い
は未来に生まれることであろう。

仏説阿弥陀経
訳　木内堯央

アミターバ（無量の光）またはアミターユス（無量の寿命）、それに漢字の音読みを当てはめたのが阿弥陀です。如来とは字の通り、『来るの如くの存在』または『そのように行きし存在』という意味になり、如来＝悟りを体現した存在＝ブッダ＝仏、と解釈できます。

つまり、阿弥陀如来とは無量光の仏、または無量寿の仏であると言えます。今回のお経の言葉はその阿弥陀如来が治める国土『極楽浄土（ゴクラクジョウド）』についてお釈迦様が説かれた、仏説阿弥陀経（ブッセツアミダキョウ）をご紹介します。

実は、我が本山修験宗（ホンザンシュゲンシュウ）では、主に葬儀や年忌法要の際にこのお経を唱えます。実際私も葬儀の読経は必ず阿弥陀経と決めています。では、いったい何が説かれているのでしょうか？

それはズバリ、「極楽浄土は大変に素晴らしい！とにかくそこへ至れるよう、一心不乱に阿弥陀仏を念じなさい！」ということがひたすらに説かれるお経です。お経の出だしには、平家物語の冒頭に登場する祇園精舎（ギオンショウジャ）にて1250人もの修行者や信者を前にし、お釈迦様が説法を始められたとあります。

説法は続き、西方の遙か彼方に、一切の苦しみが無くただ楽しみだけを受ける極楽という浄土（仏が治める国土）があり、そこには七宝の池があり青黄赤白の可憐な蓮華が咲拡がり、また黄金の大地には曼荼羅華（マンダラゲ）（一説にはチョウセンアサガオ）の雨が降り、美しい鳥たちが飛び交い、そよ風はその風景の中を通ると壮大なオーケストラの演奏を奏で、その音を聞いて誰もが仏・法・僧の三宝を敬う気持ちを絶えず興す、という正に風光絶佳の壮麗なイマジネーションが展開されます。

さて、その極楽浄土の主である阿弥陀仏への信仰を特に深めていくのが浄土教であり、日本では主に平安時代末期から鎌倉時代にかけてのいわゆる末法思想（マッポウシソウ）の中で、あの世への希望という形で民衆に支持されたというのが、現代の世間一般的な解釈のようです。

ところが、浄土教とは、単に現世を諦めてあの世での救済をひたすらに願う教えだけでは全くありません。上に紹介しましたお経の言葉の通り、むしろ、今あなたがいるその場所その時に阿弥陀仏を念ぜよという、大胆に飛躍して言うと、大慈悲心からの『自己肯定の教え』なのです。

阿弥陀経を敢えて現代的に読み解くならば、昨今、医療やスポーツさらには教育現場にも広く取り入れられているコーチング理論を用いると解り易いです。コーチングとは、それぞれの状況に応じて人間の可能性を最大限に引き出してあげる認知科学的な方法論と実践のことですが、一見荒唐無稽と思われる阿弥陀経の内容も、コーチング的な読み解きをすることでかなり実感を持てると私は考えています。

過去・現在・未来を問わず、『そう願うからこそ在るのだ』という自己肯定の発露こそが念仏であり、それを極めつくしている時、人は極楽にいるのです。

次回の行事お知らせ

- **3月20日（月祝日）　第二回献茶彼岸会（ヒガンエ）**
  午前１０時と午後２時（各自お位牌とお茶碗をお持ちください）
- **4月22日（土曜日）奉音供養会（ホウオンクヨウエ）**　詳細はお電話にてお問い合わせ下さい。
  午後6時半から、本堂にて久乗おりんのコンサートを開きます。
- **毎月28日　柱源護摩供（ハシラモトゴマク）**
  柱源護摩供は午前9時と午後3時の2回、参加費等無料です。
  ※葬儀が重なると変更される場合があります。

護国寺
781－2155
高知県高岡郡日高村九頭291
☎　0889－24－7244
ホームページ☞gokokuji.site
仏事に関してのお悩み、ご質問、行事に関するお問い合わせ等、お気軽にお電話ください。